

様式 F-7-1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成29年度）

所属研究機関名称		大妻女子大学	機関番号	32604
研究 代表者	部局	人間関係学部		
	職	講師		
	氏名	山本 真知子		

1. 研究種目名 若手研究(B) 2. 課題番号 16K17279

3. 研究課題名 里親養育における里親と実子の意識とその支援のあり方

4. 補助事業期間 平成28年度～平成32年度

5. 研究実績の概要

○申請当初の予定と平成29年度の変更点
 申請当初の予定：平成29年度は国外（イギリス）の里親支援機関等の視察を予定していた。
 変更点：平成29年度は本研究者の出産のため10月から12月まで産前産後休暇、育児休暇を取得した。そのため、平成29年10月から平成30年3月31日まで科学研究を中断し研究を行っていない。
 ○平成29年度の実績
 平成28年度の国外視察調査のまとめを行った。平成29年8月に行われた第12回ファミリーホーム全国研究大会においてファミリーホームの実子の分科会「実子のケア～参加者の語り合いを通して考える～」が行われた。その分科会において助言者として、これまでの調査報告と平成28年度の調査報告を行った。分科会では実子のケアの現状と課題ということで国外の実子ケアについての報告、また国内の調査の報告、ファミリーホームにおける実子支援の必要性について報告を行った。その後、実子や実子と委託児童を育てるファミリーホーム養育者との話し合いを行い、意見交換等を行うとともに、インタビュー調査等の質問項目や検討事項について確認を行った。この分科会の報告に関しては『社会的養護とファミリーホーム Vol.8』に掲載されている。
 また、平成30年度に行う予定のインタビュー調査の準備を行った。

6. キーワード

里親 里親の実子 家庭養護

7. 現在までの進捗状況

区分 (3) やや遅れている。
 理由
 申請当初の予定からは出産をしたため遅れている。
 しかし、産前産後休暇、育児休暇のための延長申請を行い、1年研究を延長している。そのため、延長後の予定からは計画通りに実行することができると考えられる。

2 版

8．今後の研究の推進方策

本年度は国内のインタビュー調査を行う。里親と実子へそれぞれインタビューを行い、音声データを逐語録化したうえで、分析を行う。
平成31年度は国外視察を行い、平成32年度にはこれまでのまとめとして国内外の調査・視察に関して発表を行う予定である。

9．次年度使用が生じた理由と使用計画

出産のため産前産後休暇、育児休暇を取得した。そのため、研究期間に中断が必要となった。
平成30年度の使用計画は国内調査において国内出張を行う計画になるため、旅費、人件費・謝金に使用が多くなる見込みである。また、データの作成等でその他の使用も見込まれている。

10．研究発表（平成29年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1．著者名 旭比呂子 山本真知子 元藤透	4．巻 8
2．論文標題 「実子のケア～参加者の語り合いを通して考える」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『社会的養護とファミリーホーム Vol.8』	6．最初と最後の頁 80-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

11．研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件／うち取得0件）

12．科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

13．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

14．備考

-